

# 【テーマ1:子どもの学びの変容から見る、教員研修の成果指標と評価モデルの開発】

## 【加賀市教育委員会】

- ・研究協力団体  
福井大学、NPO 法人学校の話しよう、認定特定非営利活動法人 Teach For Japan、株式会社 VisionWiz、映像ワークショップ合同会社、加賀市立小中学校23校
- ・対象人数  
加賀市立小中学校教職員 300人、児童生徒 4,200人

### モデル開発概要

#### 現場における課題

- ・多くの教員研修では単発・一斉講義型の研修に留まっており、教師の学びが個別最適な学びになっていないこと
- ・研修の効果測定が「教師の満足度」や「教師が何を知ることができたか」の確認にとどまっており、研修の評価と授業実践や子どもの学びの変容が結びついていないこと
- ・主体的に学びに向かう姿勢やエージェンシーの変容に関して、客観的な成果指標が確立していないこと

#### モデルの概要

- ◆ 「教員が何を学んだか」という単発・一斉講義型の教員研修から脱却し、伴走と対話を軸として教員研修の個別最適化を図る。あわせて、研修による教師の資質能力の変容と授業の変化、子供の学びの変容を紐づけることで、教員研修によって高めたい資質能力の指標を策定する。

#### 活用する技術・ツール等

- 伴走型および対話型研修、質問紙調査、AI解析

### 高度化に資する取組

研修の高度化	研修の成果指標
 福井大学 UNIVERSITY OF FUKUI 伴走型研修: 個別最適な学び/ 主体的な学び	 Teach For JAPAN エージェンシーの 定量的な測定
	
学校の話しよう 対話型研修: 協働的な学び/対話的な学び	 EXAWIZARDS AIを活用した、集中力 や積極性の測定

- ・教員の希望に合わせながら「授業設計」「授業の見取り」「リフレクション」等に伴走し、教員のレディネスや学級の実態、学校の目標等に合わせてコーチングやティーチング、対話を行うなどの【伴走型研修】を実施
- ・教員が自分の実践を語れるようになること、学校外の横のつながりで悩みを話せることを狙いとしたネットワーキングの場を開催したほか、希望者研修や実践者研修など、ターゲットとなるレイヤーを変えながら【対話型研修】を実施
- ・育成可能とされている非認知スキル「自己調整」「Grit」「メタ認知」を質問紙調査で年2回(7月/11月)実施し、【エージェンシーの定量的な測定】を行った。
- ・子どもに学びを委ねた授業と一斉授業の比較や、学びへの積極性、集中力、非学習状態を定点カメラで記録し、【AIを活用した測定】を行った。

### モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ ①教員研修の成果指標は、教員ではなく授業や子どもの変容で見取っていくことが望ましい。
- ◆ ②インプットは授業実践を軸にした伴走型研修で行う
- ◆ ③市内で対話型研修を積み重ねることで、言語化する回数が増え、語れる教師の数が市内に増えていく
- ◆ ④校内の組織開発を行いながら、語れる実践者を軸に学校が自走できる場所を目指した研修設計にしていきたい。